

ひたちなか市紙芝居ボランティアレポート

2011年3月20日～21日



私が紙芝居をしている様子です。演目は「のっぺらぼう」このお話お避難所4箇所全てで好評でした。もう一回やって！のリクエストも頂き何回も演じました。時間が許す限り、同じ話でも何度でも演じました。

局アナnet メンバー 中谷 奈津子 (元NHK 金沢)

元NHK 金沢放送局キャスターで、現在は役者として、そして2009年より、「紙芝居師」として主に関東圏の様々な児童施設、興業施設、ショッピングモールやイベント会場で紙芝居の口演活動を行っている。

1. はじめに(活動までの経緯)

今回、東日本大震災で深刻な災害と向き合う被災者の皆様に何か出来ないか、自分にできることは何か・・・と考えたとき、

「被災地を紙芝居で元気にしたい」
これしか思い浮かびませんでした。

そう思い立ち、震災直後から被災地の公式ホームページやツイッター、アメブロ、mixiなどで、状況を調べ、ボランティアで紙芝居できるタイミングを見計らっていました。

すぐに行動しなかったのは、数々の報道や、NHK 金沢のキャスター時代の経験上、震災後にすぐにボランティア（個人）で現地に行く事は無謀な事というのを重々知っていたからです。

まずは情報収集。そして被災地にボランティアできるタイミングを見極めました。

そんな中、もともと仕事で伺う予定だった「茨城県ひたちなか市」が被災地であることを知りました。

そして、「原則として地元の方」という条件で災害ボランティアを受け付けている、とのこと。

現地のものではないけれども、何とかして、被災地のひたちなか市に行けないかと、あらゆる交通手段を調べました。

今まで縁のない土地でしたが、何とか情報を集め、「東京～水戸～ひたちなか」のルートと、万が一の時の水戸駅周辺の宿泊施設を確保。その後早速問い合わせ、承諾いただきました。

2. 2日間の紙芝居ボランティア

《1日目》

私がひたちなか市で紙芝居のボランティアをしたのは2日間。3月20日、21日。

幸いな事に、前日の19日から、電気が通り、ひたちなか市内の避難所が4箇所に縮小されたとの事。

ガスと水道はまだ開通していませんでした。

しかし、職員の方曰く「電気が通って切羽詰った状況ではなくなった」との事で、一緒に避難所各地を回ってくださると、とてもありがたいご厚意を頂きました。

ご担当者と事前に話し合い、

「その日の避難されてる皆さんの動きや雰囲気、どのタイミングで紙芝居をするか見極める」事になりました。

20日、現地着。水戸駅の壊滅状態、あちこちの地割れ、家屋の倒壊、地盤沈下に衝撃を受けながら、ひたちなか市の避難所拠点である「総合福祉センター」に。
お休みという事で、避難されていた方は、お年寄りの方、体が自由に動かせない方、家が倒壊してしまい帰れなくなってしまった方など、30名弱いらっしゃいました。
とても静かで、皆さん毛布にくるまって動かず横になっていらっしゃる。空気は重たく、どんよりとしていました。「紙芝居やってもいいのか、うるさいと怒られるのでは」そんな重々しい空間。皆さんの表情も暗い。

そんな中、どうしたら皆さんに笑顔になっていただけるか。少しだけでも、一瞬だけでも微笑んでくれたらそれでいい。
そう考えながら、心を込めて、語りかけるように紙芝居をしました。
普段子供達にしている元気な紙芝居も取り入れながら、お年寄りの皆様に親しみのある昔話などを中心に。あまりうるさくならないように細心の注意を払いました。

お昼時、総合福祉センターで豚汁の炊き出しに合わせ、地区の方が集まってきました。親子連れも多く60名くらいがロビーにいらっしゃいました。そこで炊き出しと一緒に紙芝居をさせていただきました。
子どもも10名くらいそこに居たので、子どもも楽しめる脳トレの紙芝居と、お話の紙芝居を30分くらいかけてやりました。
子供達が紙芝居を観てくれると、親御さんをはじめ、大人の方の顔もだんだん朗らかに。
それに合わせて、先ほど寝ていらっしゃった方々もロビーに来てくれて、皆で見ていただきました。

その後、ご厚意で、もう1箇所避難所で紙芝居が出来る事に。
総合福祉センターよりも海岸に近い場所、那珂湊（なかみなど）地区の福祉施設「しあわせプラザ」。
こちらはもっと深刻でした。
お年寄りの方は疲れ果ててうんざりの表情。余所者の私を見ても何の反応もなく、「余所者は帰れ」という雰囲気。更に、ここにずっと避難している若者は、センターの方曰く「やんちゃな子達。お年寄りがうるさいと怒って困っている」という若者・・・センターの方は私に「あの子達を紙芝居で何とかできないか」と。
この重たい空気を少しでも和らげば・・・という気持ちを込めて、紙芝居をしました。
若者達は紙芝居をじっと観てくれて、それに合わせてお年寄りの方も耳を傾けてくれるようになりました。
クイズ紙芝居で若者達と交えながらの紙芝居で、避難所の空気がだんだん和やかになっていくのが判りました。

1日目の終了時には、翌日の動きや時間、帰りのバスの時刻など、担当の方と綿密に打ち合わせをし、1日目終了。

《2日目》

2日目は、総合福祉センターで飛び入り(予定外)でうどんの炊き出しが行われるとの事。
しかし、震災後本格的な大雨。原発などの風評被害もあって、外からの被災者は殆ど来ず。
この日は、美容師さんが水を使わない洗髪のボランティアをしに、ひたちなか市内4箇所の避難所を巡回する予定があり、それに合わせて紙芝居も巡回出来る事に。

避難所で過ごしている方は震災後初めて髪を洗う、という方が殆どで、本当に気持ちよさそうでした。
表情も見違えるほど変わり、顔色もよくなっていくのが手に取るように判りました。私もそれを見ていて嬉しく感じ、その中で、紙芝居をさせていただきました。
前日回った以外の場所2箇所も、避難生活の環境は決して良いものではありませんでした。
室内ではなく、広い冷たいロビーで、毛布を敷き詰めてじっとしている方が沢山いらっしゃいました。

大人やお年寄りの方が殆ど。寒さに耐え、声をかけても応じず。子供もいましたが、数名でした。
まずは、子供向けのもの。そのご、懐かしんでもらえるように日本の昔話、沢山織り交ぜて紙芝居をしました。
クイズ紙芝居は大人の方も皆さん参加してくださいました。寒いので皆さん、毛布にくるまり観ていただきました。

2日間、皆さんと接して沢山お話しして、紙芝居して、紙芝居以外の遊びもして・・・とにかくできるだけ一緒の時間をすごし、「みんなの笑顔が増えた、ホッとしました」と、センターの方にいっていただきました。

紙芝居させてもらった感謝の気持ちを忘れてはならぬ。そう強く決心し、帰途に。

3. 現地に行ってボランティアをして感じた事

現地ボランティアの皆様、福祉協議会の方々があたたかく迎えてくださいました。現場の雰囲気や震災からの沢山の情報を教えてくださったり、移動を手伝っていただいたり・・・現地のセンターの方々の協力なくしては今回のボランティア活動は有り得なかった。本当に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

センターの方は「ライフラインが整ってきた今だからこうして中谷さんに接する事ができるんですよ」とおっしゃいました。

もし、2日前に現地に行っていたら、ここまで親切にして下さらなかったでしょう。運が良かったとしか言えません。予想外の事が起こり、お互いの心遣いの行き違いもあり、ご足労かけてしまったこともありました。反省の気持ちです。

局アナnetの会員の皆様の中で「災害に遭われた方に何かしたい、情報を伝えたい、何か私にできることはないか・・・」と考えている方は多いと思います。だから皆様に、今回の紙芝居ボランティアの事を伝えたいと思ったのです。

皆様が、あるいは皆様のお知り合いの方でボランティアに参加したい・・・と思っている方がいらっしゃったら、注意して欲しい事、心構えを伝えなくては、と。

4. ボランティア活動をする上で注意したい点

●**時期の見極め。**これはかなり重要と思われます。

災害時、皆様もご存知だと思いますが、生死を分ける状況の中、何も判らない専門知識も無いボランティアが現地に行っても足手まといになるだけ。被災地の現状は常に把握できるようにするとよいと思います。

(私は、毎日、被災地の市町村ホームページの災害情報をチェックしていました。)

避難所が縮小、またはライフラインが復旧しはじめたころ、市町村の「社会福祉協議会」などのお知らせを見ると「災害ボランティアについて」という項目が出てくる事が多いです。

●**交通手段と宿、食料は自分で確保。ゴミは必ず持ち帰る。**

現地までの交通手段は、バス？電車？徒歩？上りと下り、平日と休祝日、それぞれの時刻表を必ずチェック。

徒歩なら、目印になる建物。そこから徒歩何分くらいかかるのかも忘れずにチェック。

バスも、時刻通りにバス停に着くか判りませんし、ダイヤが縮小・乱れている事が殆どなので、

いざとなったら最悪歩いていけるようにする・・・という覚悟も必要。ゴミ、食料の件は当たり前のことです。

●**地図は必ず持っていく。**

ネットの地図サービスではなくて、なるべく詳細を記載している地図を書店で購入した方がよいです。

(私はネットの地図検索で目的地に迷ってしまい、現地の方に迷惑をかけてしまいました。反省です)

●**避難所、公的施設の住所、電話番号を必ず把握**すること。

被災地の避難所はもちろん、警察署・市役所の住所、電話番号もチェック。何かあった時に連絡を取りやすくするためです。

●**現地に行ったら、必ず現地のボランティアの担当者の指示を仰ぐ。勝手な行動はしない。**

打ち合わせは現地の人と綿密に行う。担当者の指示に逆らってはいけません。迷惑をかけてしまいます。

実は、最初は一人で市内を歩き回って紙芝居をするつもりでしたが、そんな考えは無謀だと、現地に行って、現地の被災状況を見てすぐに判りました。勝手に動くのは本当に、現地の方々の迷惑になります。

●**避難されている方に、感謝の気持ちを忘れない。**

私達はボランティアをさせてもらっているのだという心構えです。

特に私のようなエンタメ系統のボランティアやマスコミの報道・取材に対して、被災者の見る目は本当に厳しいです。私も「紙芝居なんてうるさいだけなんだよ」「あんたが来てから子供らがうるさくなりやがった」とお叱りを受けました。

だから、ボランティアさせてもらってありがとう。時間を下さってありがとう。取材させて頂きありがとう。この気持ちは絶対に持ってください。そして怒らせてしまったら誠意を持って謝る。それしかできません。

●同時に「私はこういう目的で来たんだよ」という強い意志も要ります。

被災者の方は常に不安や心細い思いをしながら毎日懸命に過ごしていらっしゃると思います。

その方々から強い口調で言われる事もありますが、すべてを100%受け止めてしまうと、目的を失ってしまいます。

私はそうなりかけました。でもそれは本末転倒。気持ちを強く持ってください。思いは、必ず伝わります。家族に寄り添うのと同じ気持ちで。対等に。

以上になります。運よくボランティア活動で現地に行けた身として、皆様の何かお役に立てればと思い、今回、書かせていただきました。小田さま、ご承諾くださりありがとうございます。

今回の大震災で被災された皆様、ご親族やお仲間、ご友人・知人の方が被災に遭われてしまった皆様へ心から、お見舞い申し上げます。そして一日も早い復興を、心より願いながら、これからも被災地の皆様に紙芝居を通して笑顔を届けていけたら、そんな思いであります。

元 NHK 金沢放送局キャスター、紙芝居師・役者・リポーター 中谷奈津子



「ビーズストラップ」

被災者の女性の方から御礼にもらったもの。私の一生の宝物です。震災後、作業療法士さんがいらっしゃる時に、その方に教えてもらったのだそう。不安なときは、いつもこのビーズのストラップを作って気を紛らしていたそうです。想いが伝わってきます。



「鶴の折り紙」

これも、被災者の方。男性からいただきました。50代くらいの方でした。「この鶴は、体の部分が物入れになっている。ここに不安を全部入れて鶴に運んでもらわにゃ」と。折り方を書いた紙も一緒にいただきました。この鶴も、宝物です。



「現地の若者達1」

カメラを向けると嬉しくも照れくさそうにこっちを向かない可愛い若者。腕相撲を始めました。時間を持て余していて、この後、近くに居たお年寄りに説教されてしまいました。私も含め。反省です。



「現地の若者達2」

オレンジの法被を来た人は、私が「ボランティアに行く！」とブログに表明したのを観て「ボクも行く」と行って下さった、紙芝居師の仲間です。若者達とトランプをして盛り上がっています。ピースサインをしているのは若者たちのリーダー的な存在で、仲間の紙芝居師が持ってきた“ハゲ頭のかつら”を被ってピースサイン。お茶目な男性です。